

東大寺領莊園比定地における溝の調査

—柳瀬地区県営農地整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書—

久泉大溝跡試掘調査報告

2022年3月

富山県砺波市教育委員会



序

砺波市柳瀬地区は、市の北東部に位置しています。地区の一部が東大寺領莊園の一つ、伊加留岐村の比定地となっており、久泉大溝跡はその関連遺跡とみられます。

遺跡の発見は、久泉遺跡発掘調査において幅6m以上、深さ1.6mの大きな溝が発見されたことがきっかけでした。その後実施された地中レーダー探査により、流路が推定され2km以上となることも確認されました。こうした成果をもとに、大溝が東大寺領莊園に水を供給する用水路であったとの意見が出され、莊園との関わりが注目されています。

このたび、県営農地整備事業が当地区で計画されたことに伴い、令和3年11月に試掘調査を実施する運びとなりました。推定範囲から大溝とみられる遺構を初めて検出し、遺存状況を把握することができました。推定流路に妥当性があるように見受けられ、砺波郡東大寺領莊園の解明に寄与する可能性があります。

埋蔵文化財の保護や地域の歴史探究のため、今回の調査結果を活用いただければ幸いに存じます。最後になりましたが、調査にあたり、土地所有者をはじめとして、格別のご協力とご配慮をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

令和4年3月

砺波市教育委員会

教育長 白江 勉

例　　言

- 1 本書は、令和3年度に実施した富山県砺波市柳瀬地内に所在する久泉大溝跡の試掘調査報告書である。
- 2 調査は、県営農地整備事業に先立ち、砺波市教育委員会が実施した。
- 3 調査は、国の国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金、県の文化財保存整備費補助金の交付を受け実施したものである。
- 4 調査体制については以下のとおりである。

調査事務局 砧波市教育委員会 事務局長	構　富士雄
生涯学習・スポーツ課長	三井　康司
文化芸術係長	野原　大輔
主事	沢辺　大輔
- 5 現地調査の作業員は、(公社)富山県シルバー人材センター連合会から派遣を受けた。
- 6 調査に伴う測量支援業務は、株式会社上智に委託した。
- 7 資料整理は生涯学習・スポーツ課職員が行い、本書は野原と沢辺が協議し、沢辺が執筆・編集・写真撮影を行った。
- 8 本書で使用した方位は真北である。土層の注記は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』(2001年前期版)を用いた。
- 9 記録資料は、砺波市教育委員会が一括して保管している。
- 10 報告書作成において、下記の方々から多大なるご教示、ご協力を得た。記して厚く御礼を申し上げる。
安念 幹倫(富山県埋蔵文化財センター上席専門員)
西井 龍儀(砺波市文化財保護審議会委員)

以上、五十音順・敬称略

目　　次

序　文 例　言 目　次

第1章	位置と環境、調査の経緯と方法	1
第2章	調査の概要	3
第3章	総括	5

参考文献
写真図版
報告書抄録

第1章 位置と環境、調査の経緯と方法

1 地理的環境

砺波市は、富山県西部、砺波平野のほぼ中心に位置し、白山山系に源を発して富山湾に注ぐ庄川によって形成される庄川扇状地上にある。東には旧扇状地右扇の芹谷野段丘、そして射水丘陵から連なる東別所新山山地を控える。

県内最大規模の扇状地を形成した庄川は、時代とともに河道が変遷し現在の河川形態となった。現在の庄川が主流になるのは、近世初頭の承応年間頃の柳瀬普請、続く寛文10年にはじまる上流の松川除築堤工事を経た後のことである。平野部には、古い河道とみられる浅い谷が残り、これらの河跡を囲むように傾斜に沿って微高地が存在している。そこにはマッドとよばれる黒色有機質土が堆積している。

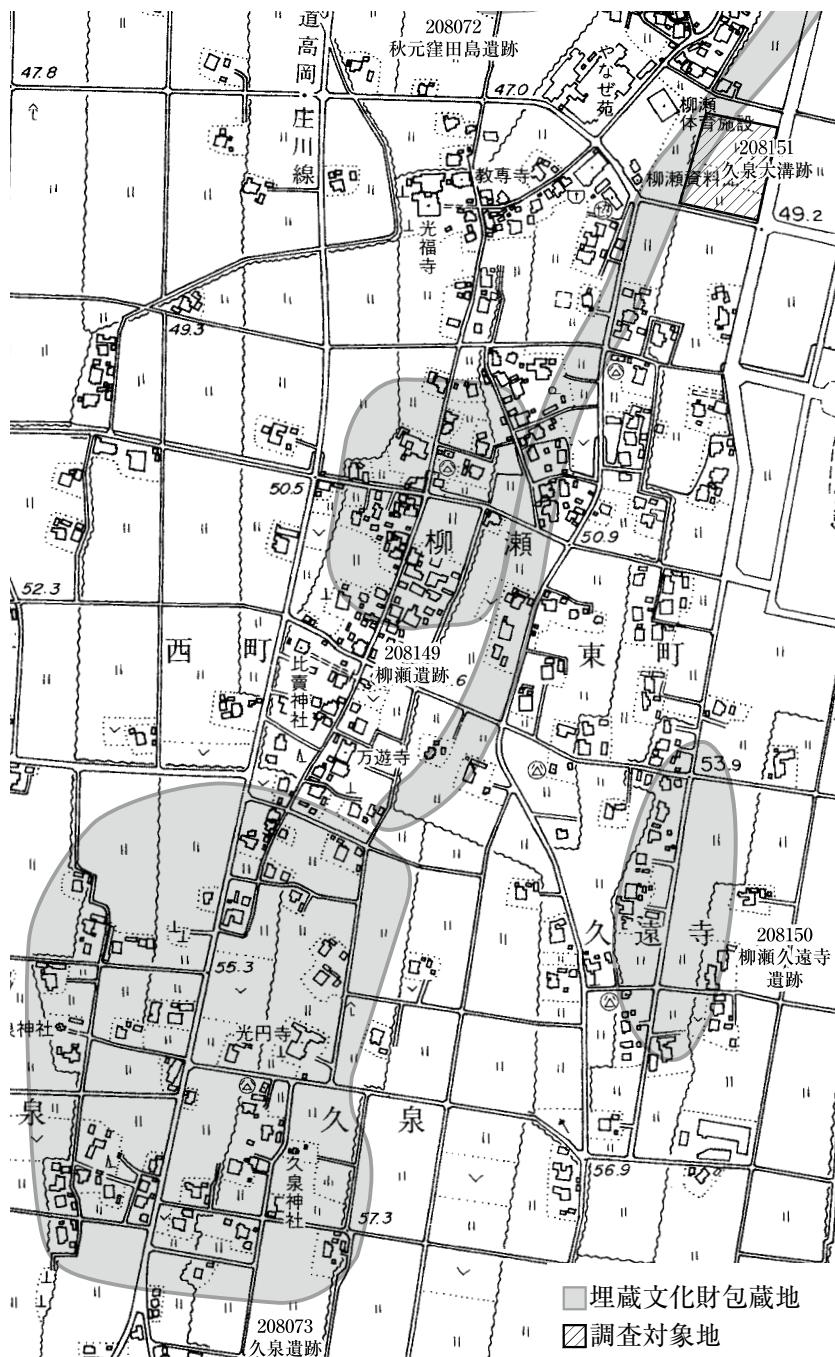
県営農地整備事業予定地柳瀬地区内にある久泉大溝跡は、砺波市の北東部に位置する。庄川の左岸に位置し、庄川に平行して太田から南北に続く微高地上にある。

2 歴史的環境

対象遺跡の周辺は、かつて庄川本流であった千保川と現在の庄川に挟まれた場所であり、それらの氾濫の影響を受けやすい地域である。そのなかで、比較的影響を受けにくく安定した微高地上に遺跡が立地している。

久泉遺跡は、縄文・古代・中世・近世の複合遺跡である。縄文時代の遺物として、中期中葉から後期にかけて打製石斧が200点以上出土し、大半を打製石斧が占めている。古代の遺構として、掘立柱建物、竪穴建物、大溝を検出した。これらは、東大寺領莊園が造営された時期のものである。下中条遺跡でも古代遺物を採取しており、莊園との関連が考えられる。

中世の遺構として、久泉遺跡で方形土坑や掘立柱建物、石組建物、溝を検出している。東大寺領莊園が廃絶し、その範囲に徳大寺家領般若野莊が成立した時代にあたり、莊域の西端に位置する。また、久泉、太田、柳瀬において宝篋印塔や五輪塔、石仏といった同時期の石造物が多く残っている。



第1図 遺跡位置図 (1/10,000) (砺波市教育委員会2011から転載し、加筆)

3 調査の経緯

県営農地整備事業が砺波市柳瀬地区で計画され、砺波市教育委員会（以下、市教委という）と富山県砺波農林振興センターとで、埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて協議を行った。については、令和3年度に市教委が調査を実施することとなった。

富山県（以下、県という）は、令和3年5月17日付で文化財保護法第94条に基づく通知を市教委に提出した。それを受けて、市教委は5月18日付で富山県教育委員会（以下、県教委という）に送付したところ、県教委は5月21日付で工事着手前に調査を実施するよう県に通知した。

地元関係者との調整を進め、11月15日から試掘調査を実施した。調査概要は第1表を参照いただきたい。

第1表 調査概要一覧

遺跡名 (遺跡番号)	調査期間	実働日数	対象面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	保護措置 の有無	調査担当者	
久泉大溝跡 (208151)	2021.11.15 ~11.19	4	12,615	216.261	有	文化芸術係長 主事	野原大輔 沢辺大輔

4 調査の方法

調査は農地整備事業予定地に係る埋蔵文化財包蔵地を対象に、その取扱いを決定するために実施し、保護措置を講ずるための資料とすることを目的とした。今後は試掘調査の結果をもとに、保護措置の必要な範囲での遺跡保護のため、工事計画との調整を図る。

調査方法はバックホウ及び人力により幅約1m、長さ7.6m～27.0mの試掘溝（トレンチ、T）を掘り、人力により平面・断面の精査を行い、遺構の遺存状況や遺物の有無を確認した。掘削深度は地山を確認するまでとした。記録はトレンチの写真撮影及び土層断面図を作成した。調査に伴う水準測量は業務委託により実施した。



第2図 久泉大溝跡位置図

(岸田ほか2007から転載)

第2章 調査の概要

1 調査の概要

調査対象地は、砺波市柳瀬に所在する。庄川左岸の微高地に立地し、標高は47.3m～47.8m、現況は水田である。遺跡は、溝の推定範囲として埋蔵文化財包蔵地に認定されている。平成17年に実施した地中レーダー探査により、久泉遺跡で検出した古代大溝が確認されたためである。調査対象面積は、12,615m²、調査面積は216.261m²で発掘率は1.71%、掘削したトレンチは8箇所である。

2 層序

1層は耕作土である。2層は盛土（灰褐色～黄褐色～褐色シルト）であり、3T～8Tにおいて厚く堆積している。層内に灰色砂が不均等に堆積していること、くずれやすくもろいこと、層内の礫が割れており川原石とは考えにくいことから盛土であると判断した。3層は洪水堆積層（黄灰色シルト）であり、1Tでは堆積し溝を埋めている。細分することが難しいことから、短期間で堆積したと考えられる。4層は自然堆積層（黄褐色シルト）、5層は洪水堆積層（褐色シルト）である。6層は旧河道（褐色砂質土、砂利）であり、1～10cmの礫を多量に含む。7層は黒色有機質層（黒色シルト）で、久泉遺跡発掘調査の際に「黒ボク土」（野原2007）と呼称している層である。久泉遺跡では、この上面から概ね奈良時代後半から平安時代初頭（8世紀後半～9世紀前半）の遺物や遺構を検出した。8層は地山（黄褐色シルト）で、久泉遺跡発掘調査の際に「7層」（野原2007）とした層である。

3 地形

1Tと3Tでの6層の堆積状況を比較すると、西側へ広がっていることが確認できる。そのため、旧河道は北西方向へ流れていたと考えられる。

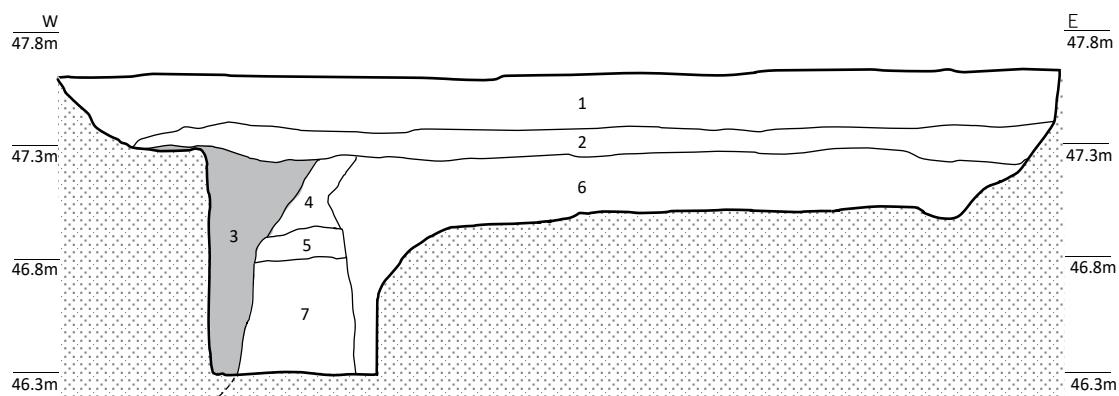
4 遺構

1T、2Tの西側で溝1条を確認した。溝は地山を掘り込んでいるが、溝の深さは不明である。西に向かって掘り込まれているため、確認したのは溝の東端である。3T～8Tにおいては、同様の溝は確認できなかった。

2Tの7層内に、幅30cmで高さ20cmの焼土を確認した。層内から遺物が確認されず時期は不明であるが、溝がこの層より深く掘り込んで作られているため、それ以前の遺構であると考えられる。

5 遺物

全てのトレンチにおいて、遺物の出土はなかった。



第3図 1T層位断面図

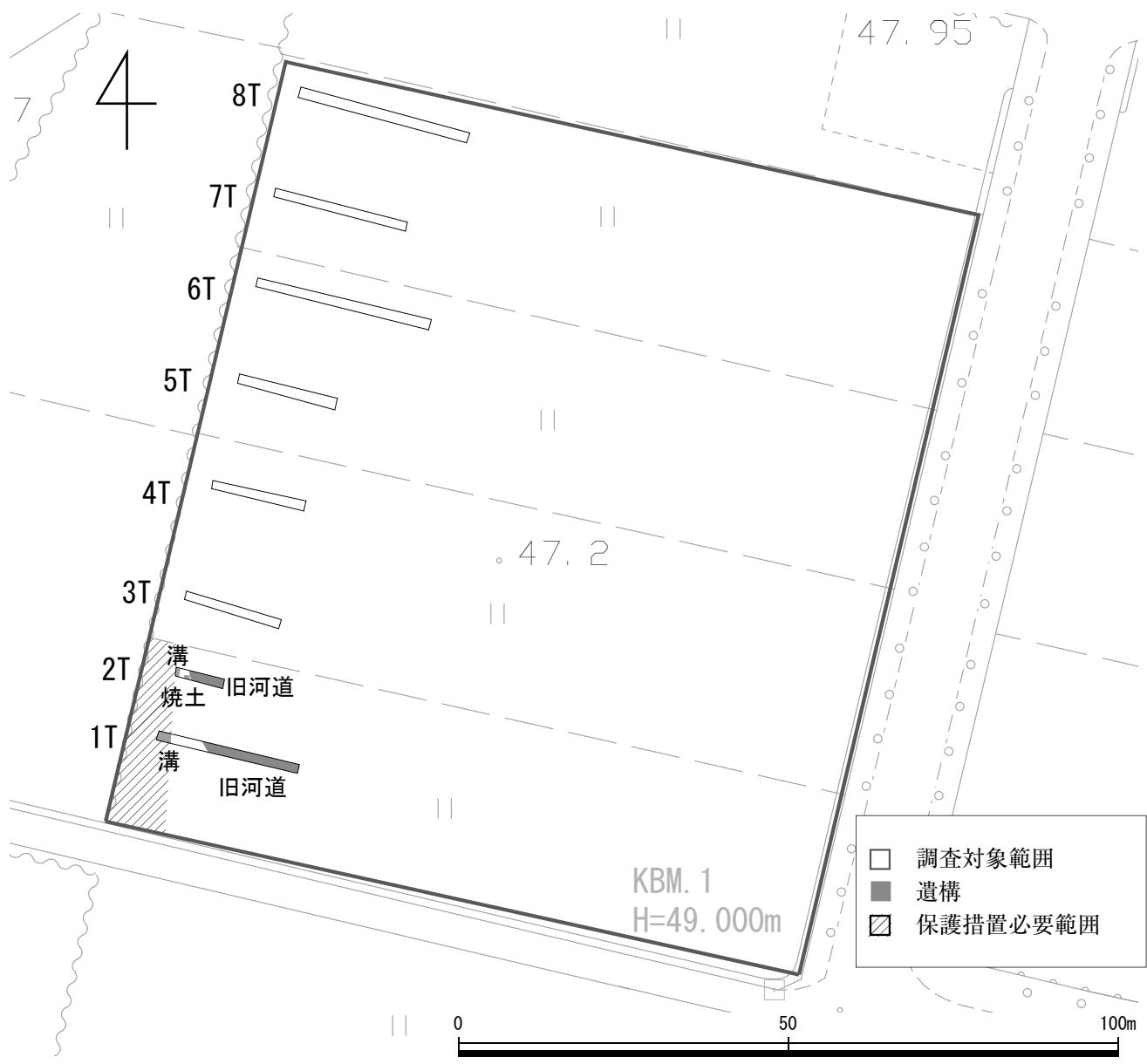
6 埋蔵文化財包蔵地について

調査対象地のうち、南側の1Tと2Tで遺構が認められる。遺跡は古代で、種類が溝跡である。一方、中央部から北半部は遺構は確認できず、遺跡とは認められない。盛土が厚く堆積していること、北西方向に旧河道が広がっていたと考えられることから、後世の搅乱や旧河道による浸食によって削平された可能性がある。

対象トレンチの概要は第2表、試掘調査による保護措置を要する範囲は、第4図のとおりである。

第2表 調査概要一覧

トレンチ番号	遺構		遺物	
	種類	時代	種類	遺物
1T	溝	古代	-	-
2T	溝 焼土	古代 不明	-	-
3T	-	-	-	-
4T	-	-	-	-
5T	-	-	-	-
6T	-	-	-	-
7T	-	-	-	-
8T	-	-	-	-



第3章 総括

1 調査後の措置

今回試掘調査を実施した調査対象地のうち、遺構が良好に遺存している268.8m²の範囲において、記録保存（本発掘調査）等の保護措置が必要であると判断した。

保護措置を要する範囲内で、農地整備事業の工事設計する際に基準となる標高を、第3表にまとめた。なお、保護措置を要する範囲及び各トレンチの概要は前章を参照していただきたい。

2 調査所見

調査区から溝を一条検出した。層の落ち込みが急であることから、自然的作用によるものとは考えにくい。遺物が確認されず年代は不明であるが、レーダー探査による大溝の推定範囲から検出されたことを勘案すると、大溝である可能性が高い。発掘調査により、久泉遺跡以外から初めて大溝を検出できたことで、推定流路（岸田ほか2007）には妥当性があるように見受けられる。

8世紀後半、砺波郡に石栗、伊加留岐（伊加留岐）、井山、杵名蛭という4つの東大寺領荘園が成立したが、開田地図や地形条件などをもとに、これらの荘園の位置比定研究が行われてきた。今回調査を行った久泉大溝跡は、この謎の解明に寄与するとみられている。今回の検出箇所は伊加留岐村の比定地にあたるが、この溝はさらに北東へ延び、石栗村へ導水していた（金田2007）とする見方がある。大溝の流路を明らかにすることは、絵図に残る砺波郡の東大寺領荘園を復元することにつながる可能性がある。

しかしながら、大部分の調査区では搅乱や浸食による削平があったとみられ、遺構が一部でしか検出できなかった。今後の流路解明には難しさも想定されるが、周辺遺跡を含めた発掘調査、文字資料の増加や解明、レーダー探査などの理化学的調査などが今後行われ、研究がさらに進展していくことを期待している。

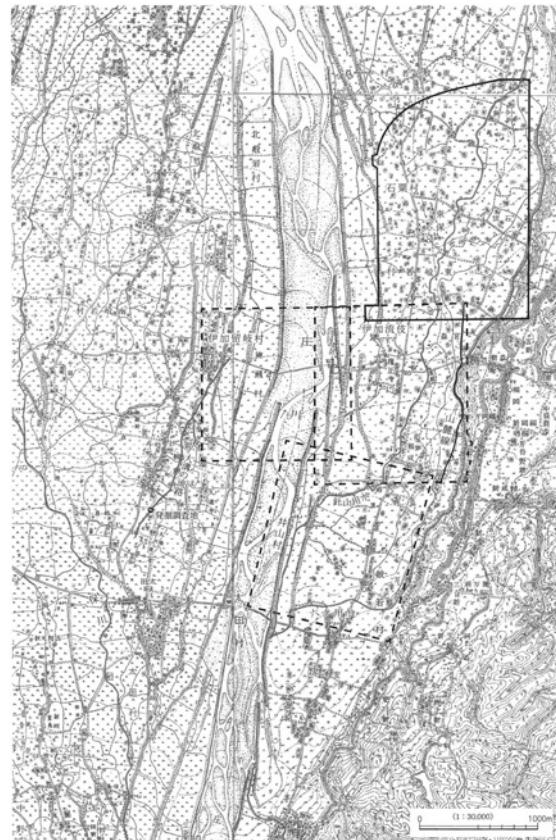
参考文献

- 岸田徹・酒井英男 2007 「久泉遺跡の大溝を対象とした地中レーダー探査研究」『久泉遺跡発掘調査報告Ⅲ』砺波市教育委員会
 金田章裕 2007 「久泉遺跡における大溝・建物遺構の性格」『久泉遺跡発掘調査報告Ⅲ』砺波市教育委員会
 砧波市教育委員会 2011 『砺波市遺跡詳細分布調査報告7《遺跡地図編》』
 野原大輔 2007 「第3章 調査の方法と成果」『久泉遺跡発掘調査報告Ⅲ』砺波市教育委員会

第3表 田面調整一覧

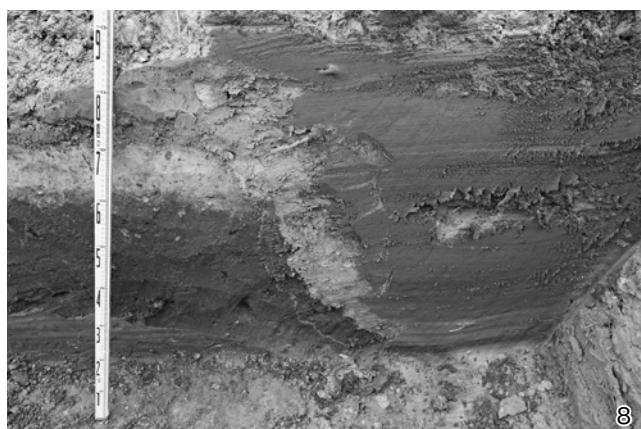
トレンチ No.	現況水田高	遺構面標高
1T	47.6m	47.3m
2T	47.5m	47.2m

※網掛けの数値は田面調整の基準となる標高



第5図 石栗村・伊加留岐村・井山村現地比定と久泉遺跡大溝の流路（金田2007から転載）

写真図版



1. 調査地遠景（東から）
5. 1T 全景（西から）

2. 調査地遠景（南から）
6. 1T 断面（南から）

3. 発掘作業状況
7. 1T 断面（東から）

4. 発掘作業状況
8. 1T 溝検出状況（北から）



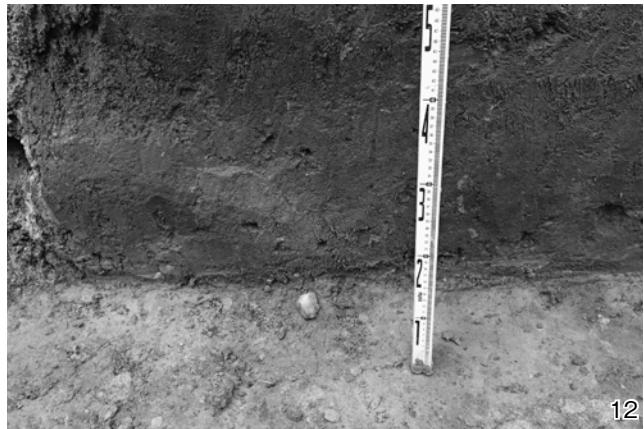
9



10



11



12



13



14



15



16

9. 2T 全景 (西から)
13. 3T 全景 (西から)

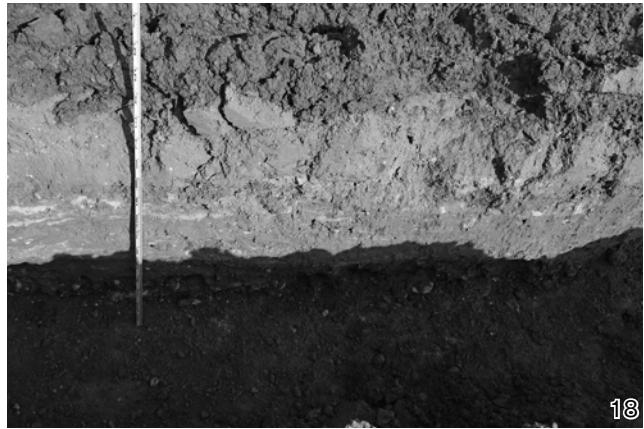
10. 2T 断面 (南から)
14. 3T 断面 (南から)

11. 2T 断面 (東から)
15. 4T 全景 (西から)

12. 2T 焼土検出状況 (北から)
16. 4T 断面 (南から)



17



18



19



20



21



22



23



24

17. 5T 全景 (西から)
21. 7T 全景 (西から)

18. 5T 断面 (南から)
22. 7T 断面 (南から)

19. 6T 全景 (西から)
23. 8T 全景 (西から)

20. 6T 断面 (南から)
24. 8T 断面 (南から)

報告書抄録

ふりがな	ひさいづみおおみぞあとしくつちょうさほうこく							
書名	久泉大溝跡試掘調査報告							
副書名								
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	沢辺大輔							
編集機関	砺波市教育委員会							
所在地	〒939-1398 富山県砺波市栄町7-3 TEL 0763-33-1609 FAX 0763-33-1157							
発行年月日	令和4年3月31日							
所収名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひさいづみおおみぞあと 久泉大溝跡	とやまけん 富山県 となみし 砺波市 やなせ 柳瀬	162086	208151	36°38'46"	136°59'50"	2021.11.15～ 2021.11.19	216.261m ²	県営農地整備事業 柳瀬地区
所収名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
久泉大溝跡	遺跡	古代	古代－溝 不明－焼土	-			保護措置必要	
調査の要約	久泉遺跡で検出した古代大溝の推定範囲である、久泉大溝跡において試掘調査を実施した。遺構として、溝と焼土を検出した。層の落ち込みが急であることから、溝は自然的作用によるものとは考えにくい。遺物が確認されず年代は不明であるが、レーダー探査による大溝の推定範囲から検出されたことを勘案すると、大溝である可能性が高い。							

久泉大溝跡試掘調査報告

東大寺領莊園比定地における溝の調査

—柳瀬地区県営農地整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2022年（令和4年）3月31日発行

編集・発行 砺波市教育委員会

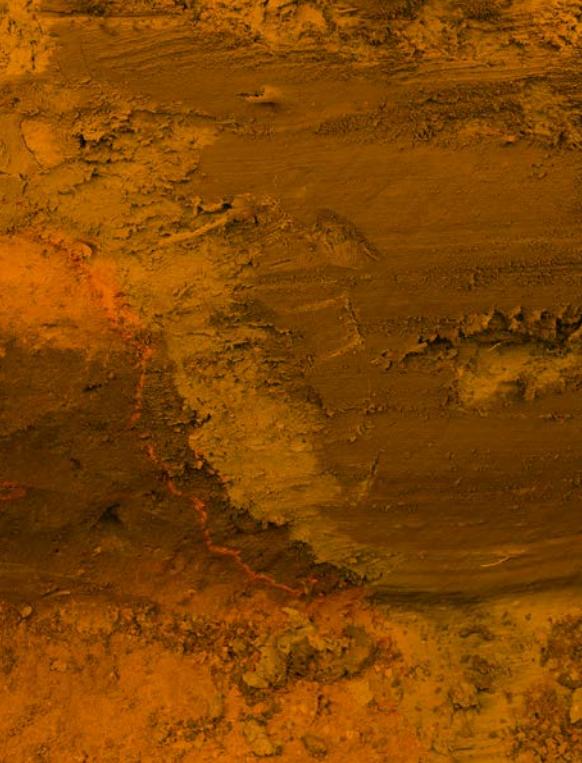
〒939-1398 富山県砺波市栄町7-3

TEL (0763) 33-1609 FAX (0763) 33-1157

印刷・製本 株式会社チューエツ

〒930-0057 富山市上本町3-16 上本町ビル

TEL (076) 495-1300



2022年3月
富山県砺波市教育委員会